

光栄の森

平成26年2月 毎月1日発行 第68号

発行者 光栄プロテック 吉竹

2月を迎えるにあたって

□

代表取締役 三田雅憲

1月は、リピート案件とスポット案件が重なり社員みんなも忙しく、また設備メンテナンスや第二工場の天井クレーン設置なども重なり、班長達にも多大な世話をしてもらったことに感謝しております。わたくしも、先般から告知させていただいておりました通り1月15日より東京営業所をスタートさせており、いろいろな意味で多忙な1月でありました。今まで、私自身経営は創業より経営を維持することのほうが大変であると思うておりました。

それは次の統計的数値があるからです。

企業を設立して1年以内で経営できている割合 40%[100社創業したら40社しか1年に残らない]
5年以内で経営できている割合 15%[15社しか5年に残らない]
20年以内で経営できている割合 0.3%[ここまでにはほとんど残っていない]
30年以内で経営できている割合 0.02%

“ラーメン屋は年間1000店出店してほぼ同数が廃業している” などと言われおりますがこの統計を見るまでもなく設立は易いが維持が大変なことなんだと考えていたのです。しかし、東京へ来て見てこの考え方は、間違っていることに気付かされました。東京は、まったく信用がない土地で商売することの難しさをいやというほど感じさせてくれるのです。何から何までまで説明しても「だからあなたは何をしに来ているのか？」とお客様は繰り返されるのです。カタログを見せても説明が不十分なことや説明書がない。その他本当に今まで当たり前に分かってもらっていたことがこちらでは通用しないのです。それでも、お客様の紹介だからと会ってもらっているだけでもラッキーなのです。こういう中から当社の会長は道を作っていかれたことをようやく今、私は体験することで感じております。

当社は、平成27年には創立30周年[創業54年]を迎えます。上記の数値からしても奇跡を感じます。これは本当に当社をひいきに下さったお客様、材料を供給していただいた仕入れ先様そして何よりもこんな会社に人生をささげて下さった諸先輩社員そして現社員皆様のおかげであると心から今思えるのです。

本当にありがとうございます。そして当社の会長道下の努力の賜物であると思うのです。西洋のことわざに「天才とは努力の別名である」と言うものがあります。まさに努力に努力の上、今の光栄プロテックがあると思います。一流の大学を卒業された方が、社会に出られてもパッとされないことが多いのはまさに大学に入るまでの努力はされたのでしょがその後の努力をされないからだだと思います。逆に中学もしくは高校卒業の学歴であっても努力次第でこのような素晴らしい会社を維持できることを道下は教えてくれています。私を含め社員みんなも努力を続けましょう。努力をやりすぎるということは絶対にありません。誰かが見ているからやるとかではなく自分のためにやるのです。それが本当に大きな力になると実感しています。私もこれから東京で思うようにならないことが数多く出てくると感じています。信頼してもらえなくて泣きそうになるかもしれません。でも結果が出るまで[社員みんなの生活が安定していくこと]はこの挑戦をやめるつもりはありません。しかし時には、「あなたは何を考えているのか」と思われることもあると思います。こんな時は私自身の考えや方向性をしっかりとお客様や社員へお伝えし理解していただくことが非常に大切であることも実感しております。よく考えると夫婦間であっても何年連れ添っていても話をしないと分かってもらえないことや誤解をさせていることが多くあると思うのです。[大変僣越(せんえつ)なのですが・・・]

今年はより一層相手の話を聞き、自分が伝えきれていないと感じたら理解してもらうまでコミュニケーションをとるようにしていきたいと思っております。

2月も引き続き忙しい月になりそうです。みんな病気や怪我に十分留意して共に頑張りましょう。